

M C : ○ リスナーの皆さんこんにちは。「防衛問答 近中でござる」、この番組は防衛省近畿中部防衛局の協力によりお届けしています。今回は、前回に引き続き、防衛補佐官から令和5年度版の防衛白書についてのお話を伺っていきたいと思います。防衛補佐官、よろしくお願いします。

防衛補佐官 : ○ ラジオをお聴きの皆さん、こんにちは。防衛補佐官 です。本日はよろしくお願いします。

M C : ○ 前は、防衛白書の特色や本編以外の巻頭や巻末に書かれている内容についてご紹介いただきました。

○ 今回は、こういった内容を紹介して頂けるでしょうか？

防衛補佐官 : ○ 防衛白書の本編のすべてを紹介するのは難しいので、今回は、かなり要点を絞った内容でお話します。でも、防衛白書に書かれている主要な部分はちゃんと抑えていますので、ご安心頂きたいと思います。

○ 今年の防衛白書では、6つのポイントがあります。このポイントを押さえれば、日本を取り巻く安全保障環境の変化と日本が自らどのような安全保障や防衛政策を将来にわたって行っていくのかについてご理解いただけるかと思えます。

M C : ○ では、よろしくお願いします。

防衛補佐官 : ○ それでは、今年の防衛白書のポイントの1つ目が、「ロシアによる侵略の継続とウクライナによる防衛」になります。これは、本編では第I部の「我が国を取り巻く安全保障環境」の中で書かれていますが、因みに去年は「ロシアによるウクライナ侵略」の表題でした。昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵略の戦況は、引き続き予断を許さない状況が継続していて、ロシア軍が占領地拡大に向けた作戦や、ウクライナ各地の非軍事施設に対する攻撃を継続する一方、ウクライナ軍もロシア軍への反撃を継続しています。こうした点を踏まえ、ロシアによる侵略から自らの主権と領土、国民を守る「ウクライナによる防衛」という側面を明確するために変更しています。

M C : ○ 確かに、昨年ロシアがウクライナへの侵略を開始した時は、短期決戦になってしまうのかなと言われていましたが、ウクライナのゼレンスキー大統領がSNSや外交を通じた国際社会への呼びかけや支援の要請を行って、諸外国の支援もあって奮戦しているのがニュースになっています。

防衛補佐官 : ○ そうですね。未だに続いているこの戦いによってさまざまなことが明るみに出て、日本としても重大な懸念を持って関連動向を注視していく必要があります。防衛白書の中でも今までの経緯や今後の見通しなどが書かれていますが、解説というコラムの中では、「ロシアによるウクライナ侵略の教訓」が書かれています。この中で、国連安保理常任理事国であるロシアが、ウクライナへの侵略を行った背景や戦い方から見てとれる教訓事項をわが国の視点で書かれています。

M C : ○ 今まさに起こっている戦争からも学んで、戦争を起こさせないことが一番重要ですね。

防衛補佐官 : ○ そのとおりです。

○ 2つ目のポイントは、「中国、北朝鮮、ロシアの軍事動向、米中競争と台湾をめぐる情勢」です。これは、本編の第I部「諸外国の防衛政策など」の中で書かれていますが、中国やロシア、北朝鮮の周辺国の軍事動向が昨年から今年にかけて今まで以上に、その脅威と懸念の程度が増していることが挙げられます。このことは、後程それぞれの国ごとに詳しくお話します。

○ 次の防衛白書のポイントとしては、「三文書策定の経緯及び概要」について書かれていることです。

M C : ○ 前回の放送でも説明して頂いた「国家安全保障戦略」と「国家防衛戦略」そして「防衛力整備計画」の事ですね。

防衛補佐官 : ○ その通りです。昨年12月に閣議決定されたこの3文書の事が詳しく書かれています。

M C : ○ 今年の防衛白書の次のポイントは何ですか？

防衛補佐官 : ○ はい。4つ目のポイントは、「防衛力抜本的強化「元年」予算」になります。これは、本編第Ⅱ部の「防衛力整備計画など」のところで書かれています。先ほど話しました3文書特に防衛力整備計画の初年度として抜本的にどのように防衛力を整備していくかについて予算額を含めて書かれています。

M C : ○ 昨年に比べてどのくらい予算が増えたのですか？

防衛補佐官 : ○ 令和4年度の整備計画対象経費としては、5兆1,788億円でしたが令和5年度は6兆6,001億円で前年度に比べ1兆4,213億円増額されています。

M C : ○ それは、どのように使われるのですか？

防衛補佐官 : ○ はい。新たな国家防衛戦略で、防衛力の抜本的強化にあたって重視する能力として7つの分野が書かれています。これに基づき整備計画でこの7つの分野における具体的な主要事業が挙げられ、これに予算が使われます。

○ その7つの分野とは、「スタンド・オフ防衛能力」「統合防空ミサイル防衛能力」「無人アセット防衛能力」「領域横断作戦能力」「指揮統制・情報関連機能」「機動展開能力・国民保護」「持続性・強靱性」の7つです。それぞれの意味については後ほど概要を説明します。

M C : ○ 重視する分野の説明は後ほどして頂けるということで、次のポイントは何ですか？

防衛補佐官 : ○ はい。5つ目のポイントは、「情報戦への対応や継戦能力を確保するための持続性・強靱性強化の取組を含むわが国の防衛力の抜本的強化」

です。これは、わが国の防衛体制として力による一方的な現状変更やその試みを抑止するための訓練や演習の実施と同盟国や同志国等と戦略的コミュニケーションを政府一体となって強化していくこと。また日頃から実施している警戒監視活動や対領空侵犯措置に万全を図ったり、南西地域への部隊配備、宇宙・サイバー・電磁波分野における専門部隊の新編や拡充など様々な取組を行うものです。また、日米同盟の強化や同志国等との連携強化なども含まれます。

M C : ○ このところは、盛沢山って感じですね。

防衛補佐官 : ○ もう少し詳しく説明した方がわかりやすいと思いますが、このところは概要だけわかっていただけだと思います。先ほどお話した防衛関連予算の重視分野だけでなく、今までも行ってきた取組を更に拡充・強化していく取組と理解して頂ければと思います。

M C : ○ 次の防衛白書のポイントは何ですか？

防衛補佐官 : ○ はい。最後の6つ目ですが、「防衛生産・技術基盤及び人的基盤の強化に向けた取組」です。これは、わが国の防衛生産・技術基盤は、サプライチェーン・リスクや相次ぐ撤退などの課題が山積みで厳しい状況に晒されていることから、それを強化などしていくものです。また、人的基盤の強化については、自衛隊員の人材確保が厳しくなる中、防衛力の中核は自衛隊員であり、すべての隊員が高い士気と誇りを持ち、個々の能力を発揮できる環境を整備することです。特に、ハラスメント防止対策の抜本的見直しに向けた取組も含まれています。

M C : ○ 防衛白書の6つのポイントの話を聞いただけでも、防衛白書の内容が大体わかったような気がします。

防衛補佐官 : ○ そうですね。この6つのポイントをわかってもらえれば、防衛白書の重要なおさえることができたと思います。

- M C : ○ 引き続き、防衛白書の話をして頂きますが、ここで1曲お聞きいただきますしょう。
- 今回は、海上自衛隊の歌姫、三宅由佳莉さんの歌声を聞いていただきます。

~~~~1曲目

- M C : ○ 引き続きお話頂きますが、ここからは本編の内容になるのですか？

防衛補佐官 : ○ 先ほどの6つのポイントの説明の中で、「後程説明します。」と私が言ったところをお話します。これは、当然本編に書かれている内容になります。

- M C : ○ では、よろしくお願ひします。

防衛補佐官 : ○ はい。まず、第I部では、わが国を取り巻く安全保障環境について書かれています。特に中国、北朝鮮そしてロシアの軍事動向についてお話します。

- M C : ○ この周辺国の軍事動向は報道でもよく目にしますね。

防衛補佐官 : ○ そうですね。しかし、先ほど話したとおり、昨年から今年にかけて今までにない変化もあることを知っておくべきだと思います。

- M C : ○ どのようなことですか？

防衛補佐官 : ○ それでは、国別でお話します。まず、中国についてですが、尖閣諸島周辺での軍事活動のならず、日本海や太平洋に進出するための海域と空域の通過などの活動の拡大・活発化が確認されています。防衛白書でも要図でこれを具体的にわかりやすく説明しています。

M C : ○ これを見ると凄い活動状況ですね。報道で取り上げられるのはほんの一部なんですね。

防衛補佐官 : ○ また、中国はこのような活動を定例化することで力による一方的な現状変更を試みていて、そして質・量ともに更なる活動の拡大・活発化を推進する可能性が高いと予測しています。また、これらの活動には不測の事態を招きかねない危険な行為もみられます。このことから、中国の対外的な姿勢や軍事動向は、わが国と国際社会の深刻な懸念事項であり、わが国の平和と安全及び国際社会の平和と安定を確保し、法の支配に基づく国際秩序を強化する上で、これまでにない最大の戦略的な挑戦と表現しているのです。

M C : ○ 確かにこれだけ活発に軍隊が活動していれば、恐ろしい感じもしますね。何とかやめてもらいたいと思います。

防衛補佐官 : ○ 次に、北朝鮮についてです。2022年を通じて、かつてない高い頻度で弾道ミサイル等の発射を繰り返しました。

M C : ○ 1年間でどれくらい発射したのですか？

防衛補佐官 : ○ 防衛白書にも書かれていますが、少なくとも31回で59発に及びます。

M C : ○ 北朝鮮は何のために弾道ミサイルをこんなにも発射するんですか？

防衛補佐官 : ○ その背景には、一つ目に核・長距離ミサイルの保有による対米抑止力の獲得、二つ目に米韓両軍との武力紛争に対処可能な、戦術核兵器及びその運搬手段である各種ミサイルの整備の狙いがあるとみられています。

○ 北朝鮮は、撃ち落とすことが困難な変則的な軌道で飛翔する弾道ミサ

イルや極超音速ミサイルと称するミサイルなどの他、「戦術核兵器」の搭載を念頭に長距離巡航ミサイルの実用化、またサイバー部隊の強化を進めるなど、その軍事動向は、わが国の安全保障にとって、従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威となっています。

M C : ○ 北朝鮮も注視していく必要があるんですね。

防衛補佐官 : ○ その通りです。最後にロシアについてです。まず、ロシアによるウクライナ侵略は、欧州方面における防衛上の最も重大かつ直接の脅威と受け止められています。また、わが国周辺つまり、極東方面にも近年新型装備の導入や活動の活発化の傾向がみられ、併せて中国軍との戦略的な連携を強化する動きも見られます。これらの軍事的動向は、中国との戦略的な連携と相まって安全保障上の強い懸念と表現されています。

M C : ○ 更にロシアも注視していく必要ありですね。

防衛補佐官 : ○ はい。次に本編第Ⅱ部のわが国の安全保障・防衛政策の中で、3文書についてお話しします。

M C : ○ 前回では、3文書がどのような内容のものなのかについて説明してもらいましたが、今回はどのような様なお話でしょうか？

防衛補佐官 : ○ はい。3文書の中でも特に「国家防衛戦略」に書かれている、防衛力の抜本的強化にあたって重視する7つの能力について説明します。

○ まず、1つ目が「スタンド・オフ防衛能力」です。スタンド・オフとは、一般的に「離れている」ことを意味しますが、軍事的には敵勢力が持っているレーダーや対空、対艦などの各種ミサイルの脅威の射程外から攻撃できることを意味します。よって、各国の早期警戒管制能力や各種ミサイルの性能が著しく向上していく中、自衛隊員の安全を確保しつつ、わが国への攻撃を効果的に阻止することが必要なことから、この能力を強化するものです。具体的には、地上・海上・航空から発射できた、高速滑空飛翔や極超音速飛翔など迎撃困難な能力を強化するものです。

M C : ○ 反撃能力という言葉聞いたことがあるんですが、このスタンド・オフ防衛能力と関係するんですか？

防衛補佐官 : ○ はい。関係します。この反撃能力についても詳しく防衛白書に書かれています。この中で、反撃能力とは、わが国に対する武力攻撃が発生し、その手段として弾道ミサイル等による攻撃が行われた場合、「武力の行使」の3要件に基づき、そのような攻撃を防ぐのにやむを得ない必要最小限度の自衛の措置として、スタンド・オフ防衛能力等を活用した自衛隊の能力のことを言います。

○ その背景には、近年、わが国周辺では、極超音速兵器などのミサイル関連技術と飽和攻撃など実戦的なミサイル運用能力が飛躍的に向上し、質・量ともにミサイル戦力が著しく増強される中、ミサイルの発射も繰り返されるなど、わが国へのミサイル攻撃が現実の脅威となっており、既存のミサイル防衛網だけで完全に対応することが難しくなっていることがあります。

M C : ○ 確かに、北朝鮮の情勢のところでも、従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威となっていると説明を受けました。

○ そのような背景があって、反撃能力を持たないといけないんですね。

防衛補佐官 : ○ はい、そうです。次の能力としては、統合防空ミサイル防衛能力になります。

○ この能力は、反撃能力やスタンド・オフ防衛能力とも関連しています。この考え方ですが、極超音速兵器などへの対応するため、探知・追尾能力や迎撃能力などの対処能力を抜本的に強化します。相手からのわが国に対するミサイル攻撃については、まず、ミサイル防衛システムにより公海及びわが国の領域の上空でミサイルを迎撃する。そのうえで、攻撃を防ぐためにやむを得ない必要最小限度の自衛の措置として、相手の領域において有効な反撃を加える能力としてスタンド・オフ防衛能力などを活用する。こうした反撃能力を保有することにより、相手のミサイル発射を制約し、ミサイル防衛システムによる迎撃を行いやすくすることで、ミサイル防衛と相まってミサイル攻撃そのものを抑止するというものです。

- M C : ○ しっかり対処する能力を保持することで、抑止にもつながるとい  
ことですね。  
○ 次にどんな能力を重視していますか？

防衛補佐官 : ○ はい。「無人アセット防衛能力」です。  
○ ここで使用しているアセットの意味は、武器とか兵器の総称的なもの  
と考えてもらっていいと思います。無人アセットを情報収集・警戒監視  
のみならず、戦闘支援などの幅広い任務に効果的に活用するというもの  
です。また、無人アセットを用いた戦い方も具体化し、わが国の地理的  
特性などを踏まえた開発・導入を加速し、本格運用を拡大するというも  
のです。

- M C : ○ ロシアとウクライナの戦いにおいて、無人機の攻撃も話題になってい  
ますね。

防衛補佐官 : ○ この戦いの教訓の一つですね。  
○ 次に、領域横断作戦能力です。この領域とは、宇宙・サイバー・電磁  
気の領域と陸上・海上・航空の領域のことで、領域横断作戦とはそれぞ  
れの領域における能力を有機的に融合し、相乗効果によって全体の能力  
を増幅させる作戦という意味です。特に宇宙・サイバー・電磁波の領域  
は、相手方の利用を妨げ、又は無力化する能力を含め能力を強化・拡充  
するとしています。

- M C : ○ 昔と違って陸上・海上・航空といった領域だけでなく、新たな領域も  
考えていかないといけないってことですね。

防衛補佐官 : ○ そのとおりで、その領域以外にも考えていけないことがあります。  
○ 現在の安全保障環境の特徴として、グレーゾーン事態とハイブリット  
戦という言葉があります。グレーゾーン事態とは純然たる平時でも有事  
でもない幅広い状況を端的に表現したもので、明確な武力攻撃に当たら  
ない範囲で実力組織などを用いて自国の主張・要求の受け入れを強要し  
ようとする行為が行われる状況をいいます。

○ また、ハイブリット戦とは、軍事と非軍事の境界を曖昧にした手法で、このような手法は、相手方に軍事面にとどまらない複雑な対応を強いることとなります。この手法の一つとして、サイバー攻撃による通信・重要インフラの妨害やインターネットやメディアを通じた偽情報の流布などです。

M C : ○ では、平時と有事そして軍事と非軍事の境目がますます曖昧になってきているってことですね。

○ つまり、昔では武力によって侵略を開始してそれが、戦争の始まりとはっきりわかっていたことが、今は相手国の明確な武力も行動開始も見えなくなってきているってことですか？

防衛補佐官 : ○ そのとおりです。ですので、そのような領域と戦い方を広げて強くしていかなければ、その攻撃を防ぐことができないということになります。

M C : ○ わかりました。次の能力は何ですか？

防衛補佐官 : ○ はい。次は指揮統制・情報関連機能になります。これは、今後より一層、戦闘様相が迅速化・複雑化していく状況において、戦いを制するためには、各級指揮官の適切な意思決定を相手方よりも迅速かつ的確に行い、意思決定の優越を確保する必要があります。そのために、AI導入などを含めたネットワークの抗たん性やISRT能力、つまり情報収集、警戒監視、偵察、ターゲティングの能力を強化するとしています。また、同盟国・同志国などとの情報共有や共同訓練などを実施するとしています。

M C : ○ そして次が6つ目の能力ですね。

防衛補佐官 : ○ はい。次が機動展開能力・国民保護です。これは、島嶼部を含むわが国への侵攻に対して、これを接近・上陸阻止するため、必要な部隊を迅速に機動展開させる必要があります。このため、自衛隊の輸送力を強化しつつ、民間の輸送力を活用するとともに、平素から空港・港湾施設な

どの利用拡大をするものです。また、この機動展開能力を住民避難に活用して国民保護の任務を行うとしています。

- 最後の能力が持続性・強靱性になります。これは、将来にわたりわが国を守り抜くうえで、弾薬、燃料、装備品の可動数といった現在の自衛隊の継戦能力は、必ずしも十分ではないことから、弾薬の生産性の向上、火薬庫の確保そして部品不足を解消するものです。また、自衛隊施設の老朽化、地下化、構造強化及び再配置による強靱化を図り、自衛隊員の継戦能力の強化を図るものです。
- 以上が、防衛力の抜本的強化にあたって重視する7つの能力になります。

M C : ○ 説明ありがとうございました。聞いてみるとなるほどと感じるところもありますし、ちょっと難しいところもありますが、防衛力のどのようなところを強化するのかは、何となくわかりました。

防衛補佐官 : ○ なかなか説明が上手なくてすみません。  
○ ただ、MC がおっしゃって頂いた防衛力のどのようなところを強化するかの概要を理解いただいただけで十分です。

M C : ○ 今回も貴重なお話ありがとうございました。  
○ それでは最後に 防衛補佐官コメントをお願いします。

防衛補佐官 : ○ はい。  
○ 今回は、6つのポイントから防衛白書を説明させて頂きました。  
○ 前回と今回を通じて「日本を取り巻く安全保障環境の変化と日本が自らどのような安全保障や防衛政策を将来にわたって行っていくのか。」について少しでもご理解いただき、防衛白書に興味をもってもらえればと思います。

M C : ○ 先月と今月の2回に分けて防衛白書について詳しくお話を伺いました。  
○ 防衛補佐官、お話ありがとうございました。

防衛補佐官：○ こちらこそ、ご清聴ありがとうございました。

M C :○ それでは、終わりに、本日2曲目となります海上自衛隊の歌姫、三宅由佳莉さんの歌声を聞きながらお別れしたいと思います。

~~~~ 2曲目